

### 3 尾張中西部・海部地区

〔 一宮市、稲沢市、清須市、北名古屋市、豊山町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村 〕

#### 【地区の概況】

尾張中西部・海部地区は名古屋市の北西部に位置しており、地区北部は、早くから毛織物など繊維産業を中心に発展してきましたが、近年は、こうした地場産業を取り巻く環境が厳しくなっていることに加え、名古屋駅への利便性の高さから、名古屋市のベッドタウンとしての性格が強くなっています。

一方で、県営名古屋空港周辺や臨海部では、次世代産業の柱として期待される航空宇宙などの産業集積が進んでいます。

地区南部の海部地域は県内でも有数の農業地帯となっており、稲作のほか、レンコン、トマトなどの野菜の栽培も盛んに行われています。

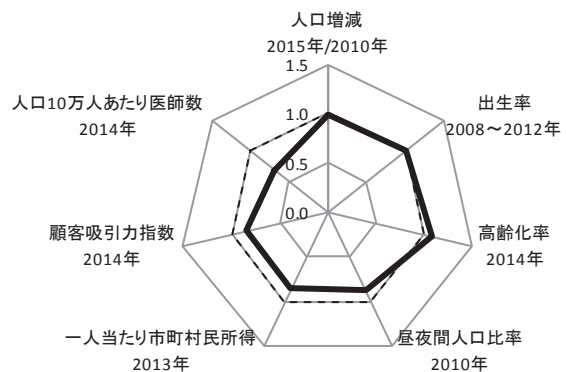
また、この地区は、尾張津島天王祭、須成祭、国府宮はだか祭などの伝統的な祭りや、七宝焼などの伝統的工芸品をはじめ、特色ある歴史・文化を有する地区でもあります。

海部地域を中心に広がる日本最大のゼロメートル地帯では、南海トラフ地震への対応が課題となっています。

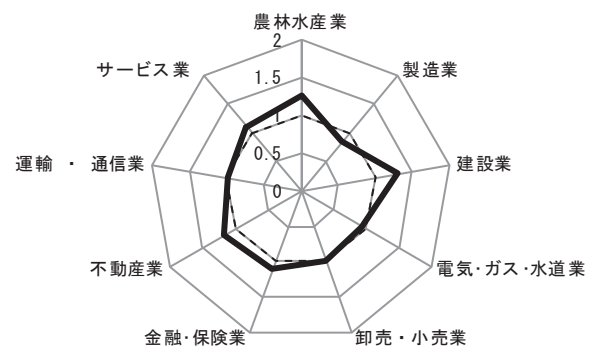


- 人口 1,012,907人 (13.5%)
- 面積 443.44k㎡ (8.6%)
- 人口密度 2,284.2人/㎡

※人口は2015年10月現在、面積は2014年10月現在、  
( )内は県内シェア



＜域内総生産構成比の全県との比較＞



〔 全県データ（点線）を1として、この地区の指数を実線で図示 〕

## 1 人口

尾張中西部・海部地区の2015年の人口は1,012,907人（2010年比100.5%）、県内シェアは13.5%となっています。

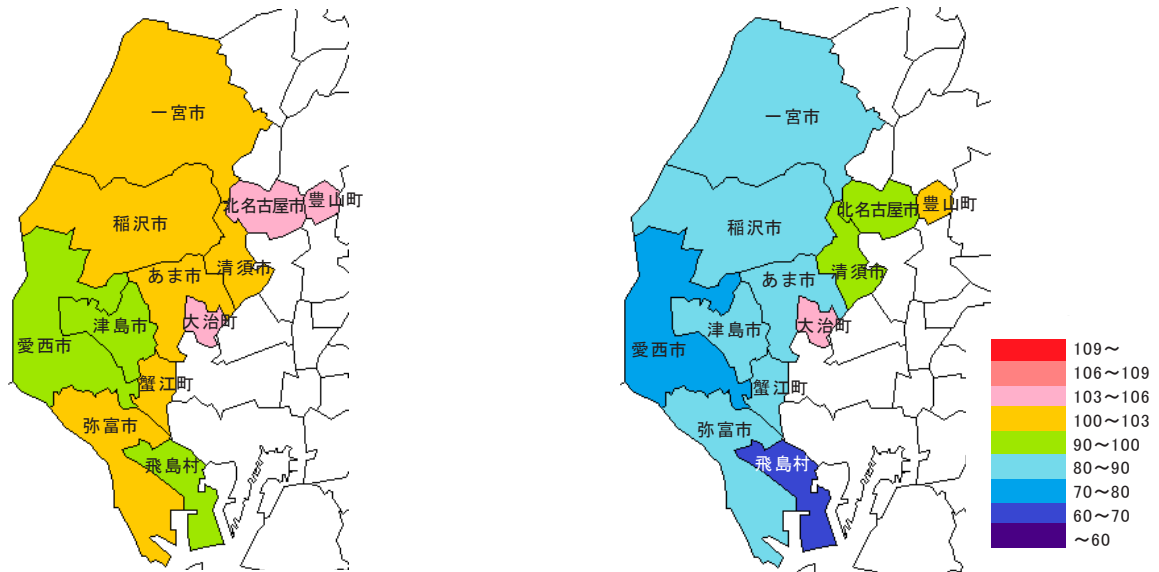
市町村別に見ると、名古屋市に隣接する豊山町（2010年比105.4%）、大治町（同年比103.7%）、北名古屋市（同年比103.2%）では、名古屋市のベッドタウンとして若い世代を中心とした転入者が多く、人口増加が続くとともに、高齢化率も低くなっています。一方、愛西市（同年比97.1%）、飛島村（同年比97.2%）、津島市（同年比97.3%）では、人口が減少し、高齢化率も高くなっています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の地区内の人口は890,250人（2010年比88.3%）に減少すると見込まれています。減少率が高いのは、飛島村（同年比69.6%）、愛西市（同年比77.1%）などとなっています。また、高齢化率は11.3ポイント上昇と、県平均（+12.2ポイント）より低いものの、飛島村（2010年比+15.4ポイント）、津島市（同年比+14.5ポイント）などで大きな上昇が見込まれています。

### ■総人口の推移

◇2015年（2010年を100とした比較）

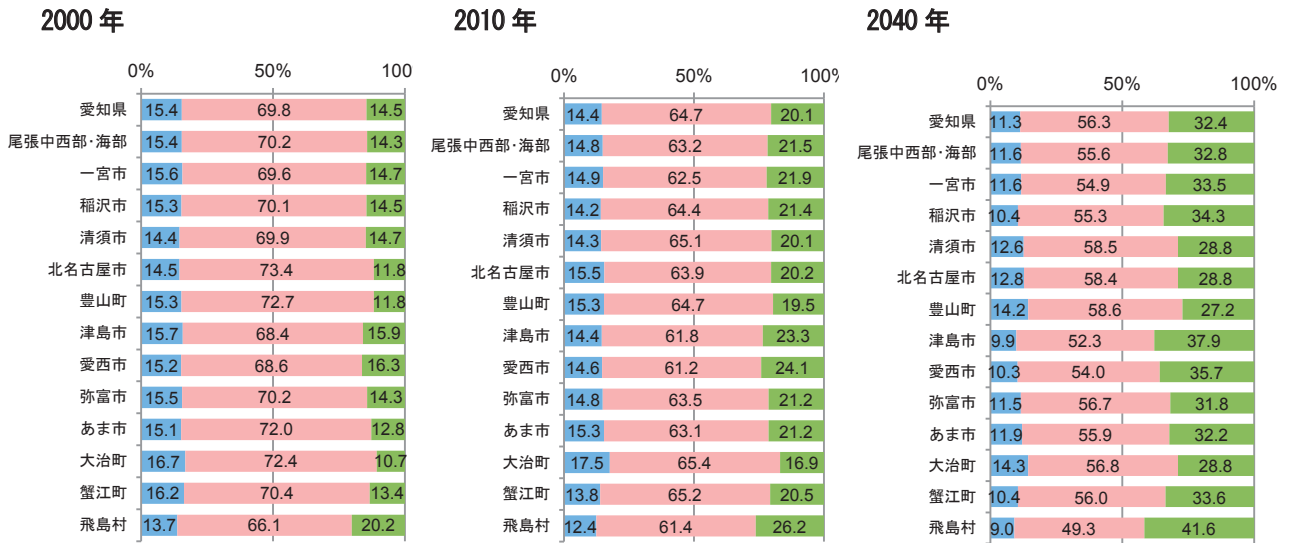
◇2040年（2010年を100とした比較）



	総人口（人）					増減率	
	2000年	2005年	2010年	2015年	2040年	2010年→2015年	2010年→2040年
愛知県	7,043,300	7,254,704	7,410,719	7,484,094	6,855,632	101.0%	92.5%
尾張中西部・海部	974,759	992,258	1,008,067	1,012,907	890,250	100.5%	88.3%
一宮市	362,726	371,687	378,566	379,954	335,536	100.4%	88.6%
稲沢市	136,938	136,965	136,442	136,969	111,867	100.4%	82.0%
清須市	63,009	63,358	65,757	67,393	64,870	102.5%	98.7%
北名古屋市	75,728	78,078	81,571	84,153	80,979	103.2%	99.3%
豊山町	13,001	13,565	14,405	15,183	14,431	105.4%	100.2%
津島市	65,422	65,547	65,258	63,471	52,968	97.3%	81.2%
愛西市	65,597	65,556	64,978	63,119	50,113	97.1%	77.1%
弥富市	42,179	42,575	43,272	43,275	38,647	100.0%	89.3%
あま市	82,321	85,307	86,714	86,904	76,171	100.2%	87.8%
大治町	27,073	28,501	29,891	30,999	31,027	103.7%	103.8%
蟹江町	36,240	36,750	36,688	37,087	30,491	101.1%	83.1%
飛島村	4,525	4,369	4,525	4,400	3,150	97.2%	69.6%

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年少 ■生産年齢 ■老年

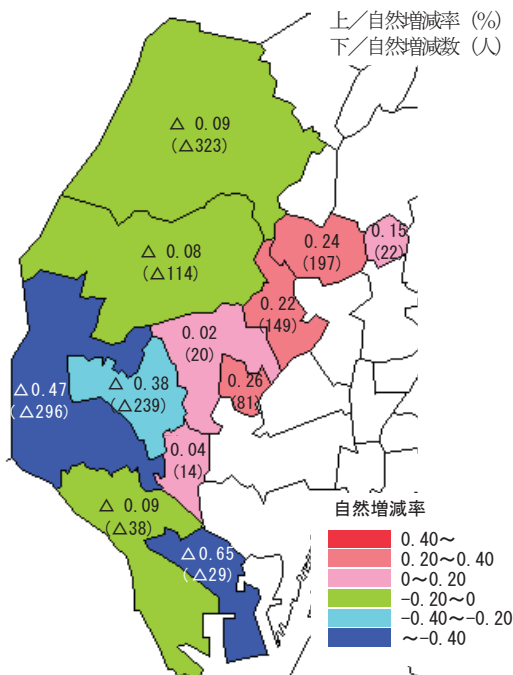
2 自然増減

尾張中西部・海部地区の2014年の自然増減率\*は-0.06%の減少で、556人の自然減となっています。自然増減率を市町村別に見ると、飛島村（-0.65%）、愛西市（-0.47%）などでマイナスが大きくなっている一方、大治町（0.26%）、北名古屋市（0.24%）などでプラスとなっています。

また、合計特殊出生率（2008年～2012年）を市町村別に見ると、大治町（1.84）、豊山町（1.74）などで高く、愛西市（1.25）、津島市（1.38）などで低くなっています。

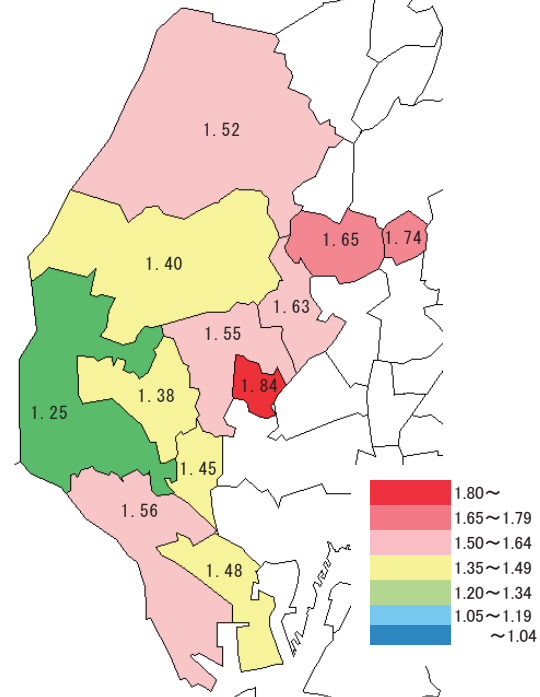
\*自然増減率=自然増減数/総人口×100

■自然増減率（2014年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率（2008年～2012年）



出典：厚生労働省「2008年～2012年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

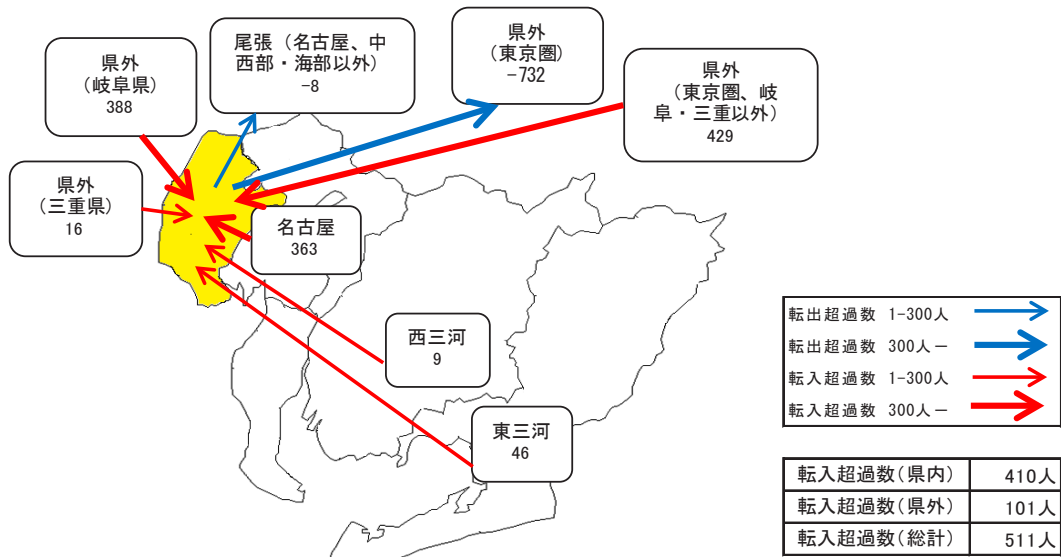
### 3 転出入の状況

尾張中西部・海部地区の2014年の転出入は、511人の転入超過となっています。岐阜県、名古屋、東三河などに対して転入超過となっている一方、東京圏や尾張（名古屋、尾張中西部・海部以外）などに対して転出超過となっています。

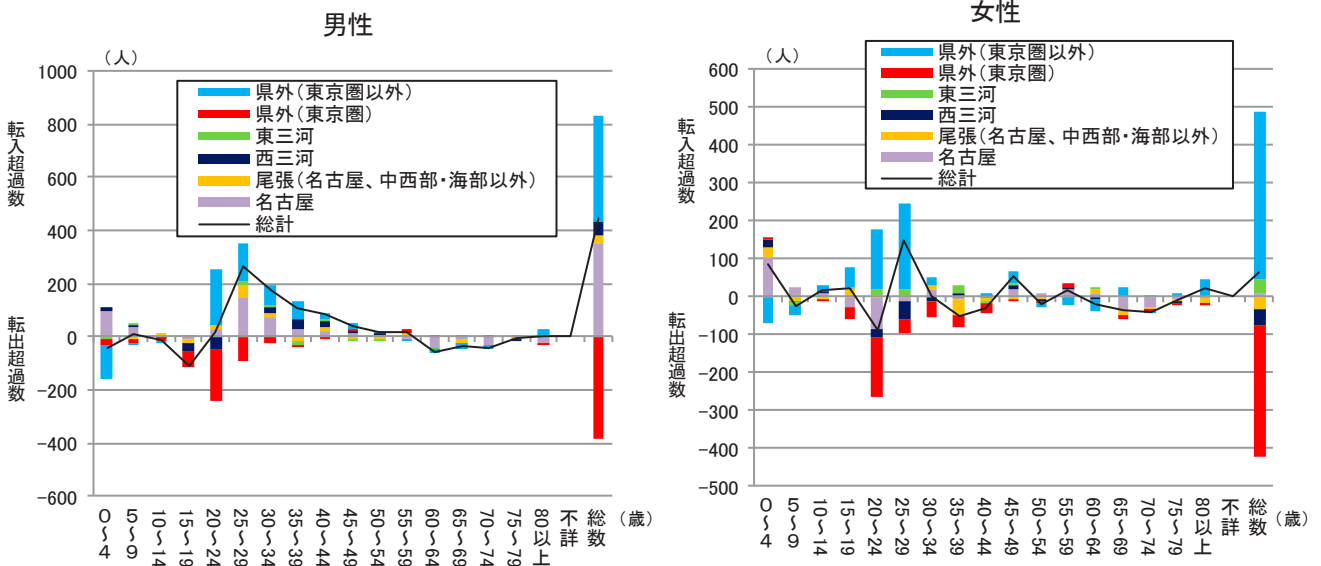
男女別に見ると、男性は、20～49歳で転入超過が大きくなっているのに対し、女性は、25～29歳で転入超過が大きくなっている一方、20～24歳、35～44歳では転出超過となっています。また、男性、女性ともに県外（東京圏以外）からの転入が多くなっています。

#### ■転出入の状況（2014年）

＜転出入の状況＞



＜5歳階級別純移動数＞



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2014年）

#### 4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

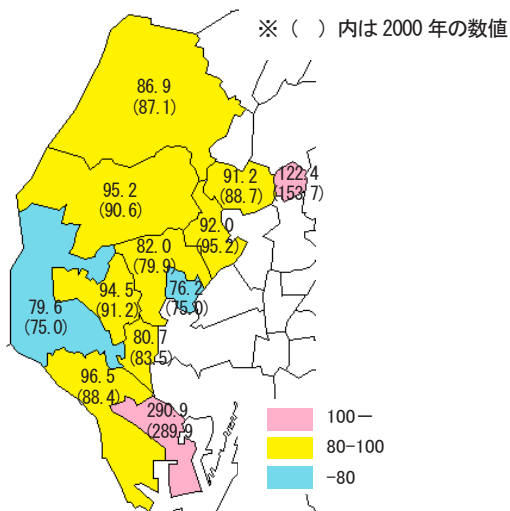
尾張中西部・海部地区の2010年の昼夜間人口比率<sup>※1</sup>は89.6(2000年比+1.2ポイント)、就従比<sup>※2</sup>は0.82(同年比-0.01ポイント)、通学比<sup>※3</sup>は0.66(同年比+0.03ポイント)となっています。

市町村別に見ると、昼夜間人口比率は、飛島村(290.9)、豊山町(122.4)で100を超えています。就従比は、飛島村(4.49)、豊山町(1.49)が高く、通学比は、津島市(1.19)で高くなっています。

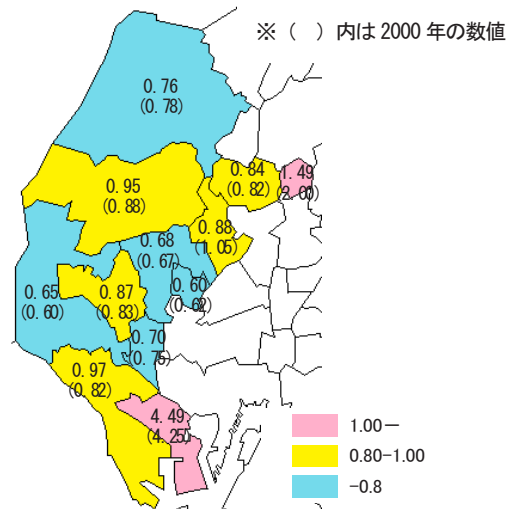
また、当地区は、通勤面では名古屋市への流出が大きく、地区内全市町村で名古屋市への通勤率が10%を超えており、大治町(40.6%)、蟹江町(36.4%)、清須市(35.5%)などで高くなっています。

- ※1 昼夜間人口比率=昼間人口/夜間人口(常住人口)×100。100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示します。
- ※2 就従比=従業地就業者数/常住地就業者数。就従比が1を下回ると、就業者の他地域への流出を示します。
- ※3 通学比=就学地通学者数/常住地通学者数。通学比が1を下回ると、通学者の他地域への流出を示します。

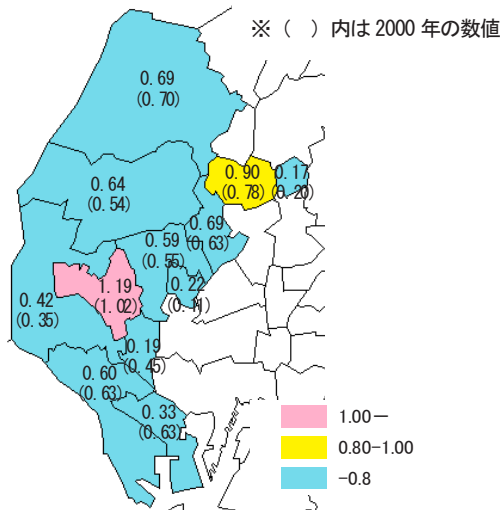
■昼夜間人口比率(2010年)



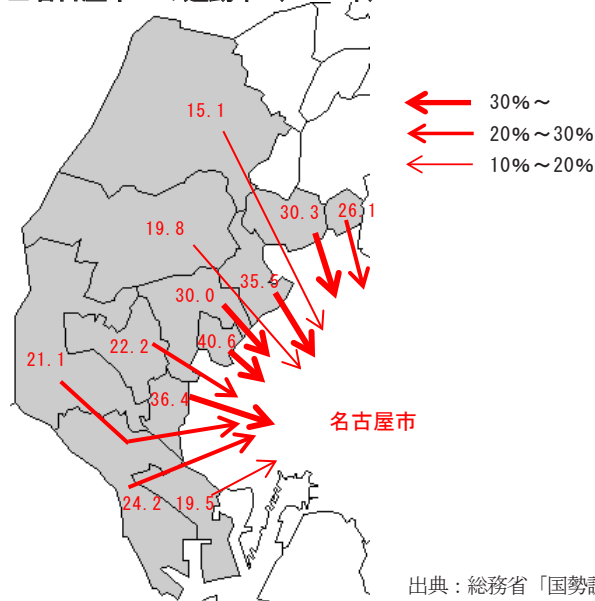
■就従比(2010年)



■通学比(2010年)



■名古屋市への通勤率(2010年)



出典：総務省「国勢調査」

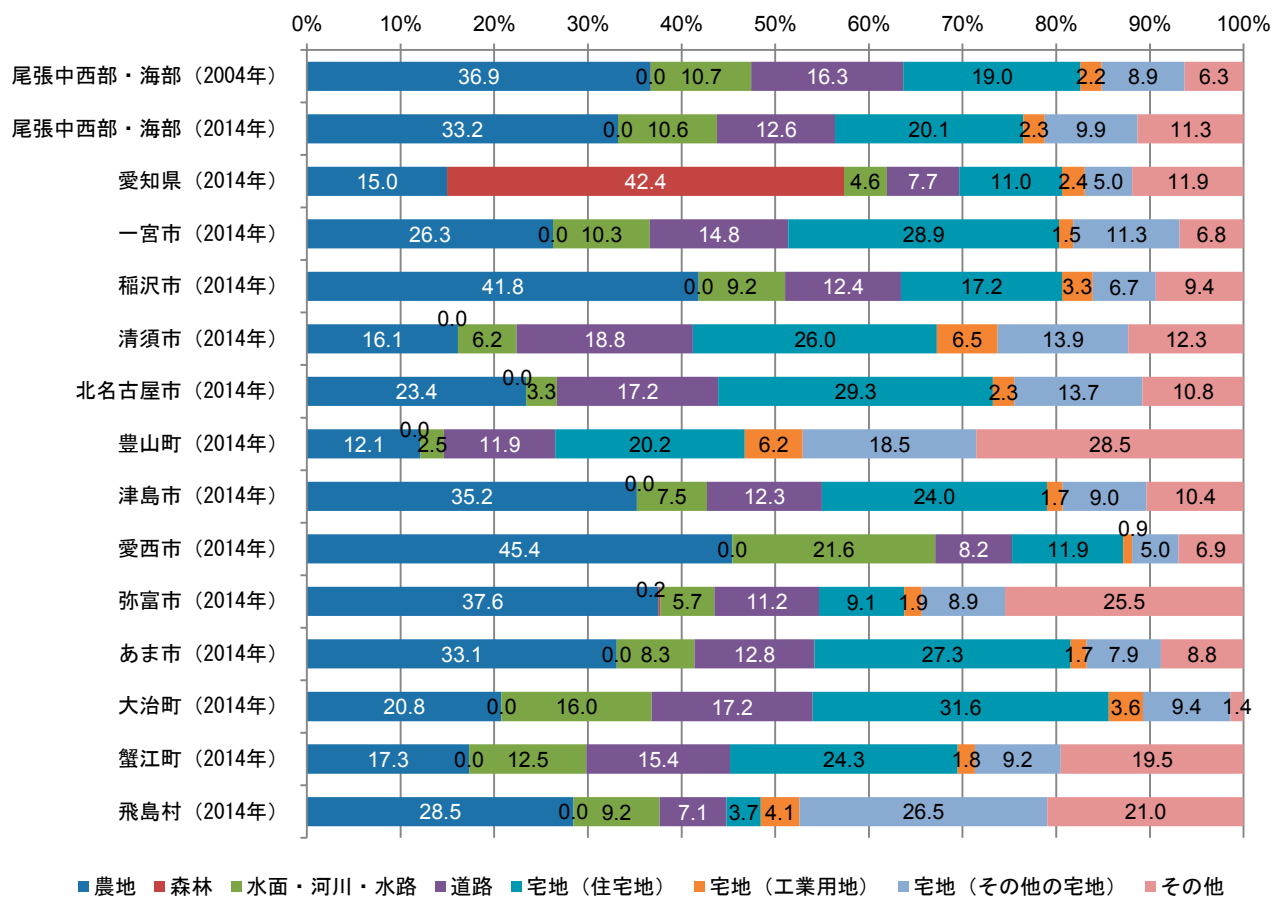
## 5 土地利用

尾張中西部・海部地区の2014年の地目別土地利用状況を見ると、農地33.2%、宅地32.3%、道路12.6%などとなっています。宅地の内訳は、住宅地が20.1%、工業用地が2.3%、その他の宅地（商業・業務用地など）が9.9%となっています。

県全体と比較すると、農地（+18.2ポイント）、住宅地（+9.1ポイント）の割合が高くなっています。また、2004年と比較すると、道路（-3.8ポイント）、農地（-3.7ポイント）の割合が減少する一方、住宅地（+1.1ポイント）、その他の宅地（+1.0ポイント）の割合が増加しています。

市町村別に見ると、大治町は、住宅地の割合が31.6%と高くなっています。また、愛西市、稲沢市、弥富市、津島市、あま市では、農地の割合が30%を超えています。

### ■土地利用状況



※端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。また、上記の説明と差引の数値が合わない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

※宅地：住宅地、工業用地、その他の宅地の合計

## 6 産業

### (1) 就業構造

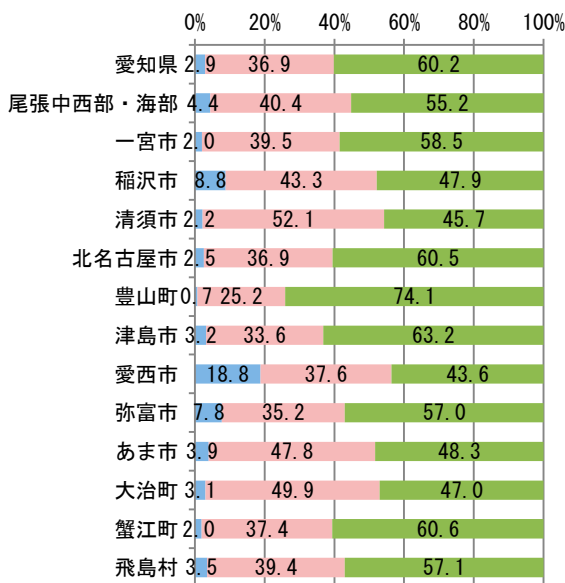
尾張中西部・海部地区の2010年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が3.2%

（県：2.3%）、第2次産業従事者比率が33.8%（県：33.3%）、第3次産業従事者比率が63.0%（県：64.4%）であり、県平均と概ね同様の就業構造を有しています。2000年と比較すると、第1次産業従事者比率（-1.2ポイント）、第2次産業従事者比率（-6.6ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+7.8ポイント）が増加しており、第2次産業から第3次産業へのシフトが大きく進んだことがうかがえます。

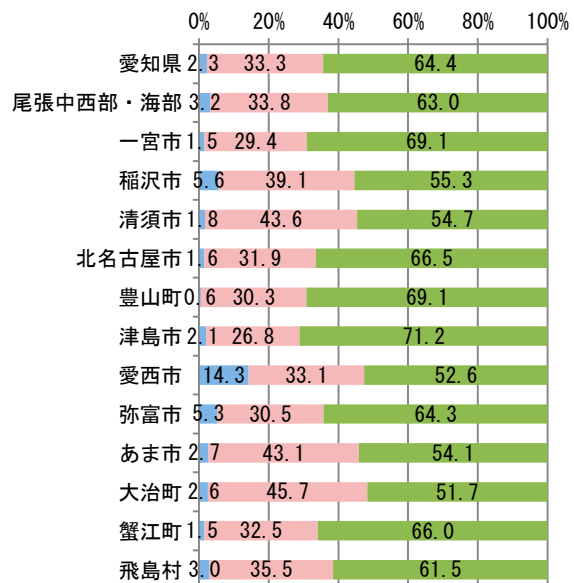
市町村別に見ると、第1次産業従事者は、愛西市(14.3%)、稲沢市(5.6%)、弥富市(5.3%)で地区平均よりも高くなっています。また、第3次産業従事者比率は、津島市(71.2%)、豊山町(69.1%)、一宮市(69.1%)で高くなっています。

■産業別就業者割合

2000年



2010年



■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

出典：総務省「国勢調査」

(2) 農林水産業

尾張中西部・海部地区の2010年の農産物販売金額は296億円であり、県内シェアは10.9%となっています。農業部門別では、花き・花木81億円、施設野菜61億円、稲作51億円などが多くなっています。当地区の西部地域は、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた水田地帯となっており、稲作は県内シェアの28.4%を占めています。また、都市近郊という地理的条件を生かし、野菜や花きの生産も盛んです。

市町村別に見ると、愛西市が88億円で最も多く、次いで稲沢市81億円、一宮市55億円となっています。愛西市ではレンコン、トマトなど野菜の販売額が多く、稲沢市では植木栽培が盛んなことから同市の販売額の49.2%を花き・花木が占めています。

また、弥富市は、金魚養殖の全国有数の産地となっています。

■農産物販売金額（2010年）

	販売金額	内訳（上位3位）				販売金額	内訳（上位3位）		
		花き・花木	施設野菜	稲作			施設野菜	露地野菜	花き・花木
尾張中西部・海部	295.9	80.9	60.9	50.9	愛西市	88.3	29.4	18.6	15.6
一宮市	54.8	21.3	12.3	7.1	弥富市	29.3	10.6	9.1	4.6
稲沢市	81.1	39.9	9.8	9.8	あま市	10.9	4.1	2.7	1.8
清須市	5.0	3.5	0.6	0.3	大治町	2.1	1.7	0.3	0.2
北名古屋市	2.9	1.3	0.8	0.3	蟹江町	3.9	3.0	0.5	0.3
豊山町	0.2	0.2	0.0	—	飛島村	7.4	2.5	1.5	1.4
津島市	10.0	4.2	3.0	1.5					

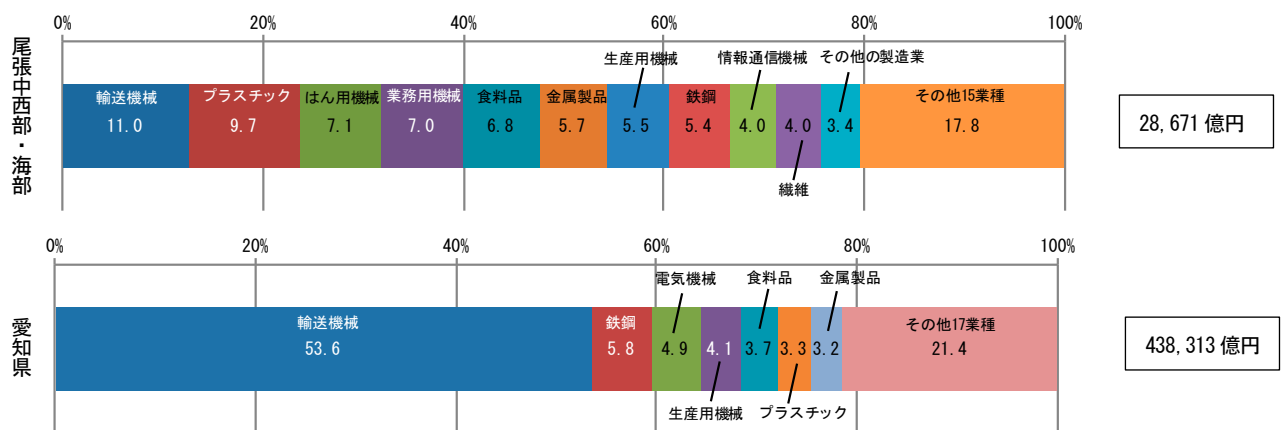
出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

（3）製造業

尾張中西部・海部地区の2014年の製造品出荷額等は2兆8,671億円であり、県内シェアは6.5%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が11.0%、プラスチックが9.7%、はん用機械が7.1%などとなっており、県全体と比較して、多様な業種構成となっています。

市町村別に見ると、稲沢市が8,417億円で最も多く、次いで、一宮市が5,299億円、清須市が2,751億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2014年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

■市町村別製造品出荷額等（2014年）

	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	438,313	795,496	16,795
尾張中西部・海部	28,671	84,219	2,640
一宮市	5,299	20,543	825
稲沢市	8,417	19,428	322
清須市	2,751	7,058	213
北名古屋市	1,605	6,123	217
豊山町	1,710	3,575	49
津島市	1,173	4,424	166
愛西市	679	3,823	172
弥富市	1,706	5,028	155
あま市	1,443	6,059	261
大治町	690	2,138	71
蟹江町	600	2,315	86
飛島村	2,599	3,705	103

出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）



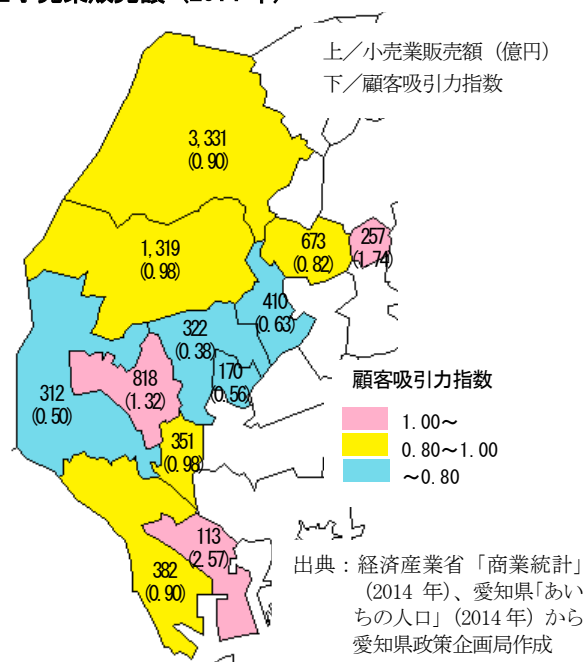
#### (4) 商業

尾張中西部・海部地区の2014年の小売業販売額は、8,459億円であり、県内シェアは11.6%となっています。また、顧客吸引力指数\*は0.85となっています。

市町村別に見ると、小売業販売額は、一宮市が3,331億円、次いで稲沢市が1,319億円と多くなっています。また、顧客吸引力指数は、飛島村(2.57)、豊山町(1.74)、津島市(1.32)が1.00を超えています。

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除したもの。指数が1.00以上の場合、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると見ることができます。

■小売業販売額（2014年）



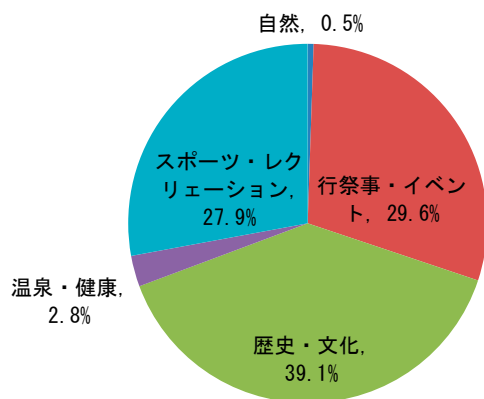
#### 7 観光

尾張中西部・海部地区の2014年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「歴史・文化」が39.1%で最も割合が多く、次いで「行祭事・イベント」が29.6%、「スポーツ・レクリエーション」が27.9%となっています。利用者数上位の観光資源は、国営木曾三川公園138タワーパーク（年間1,932,176人；一宮市）、真清田神社（年間1,190,380人；一宮市）、一宮七夕まつり（年間1,105,000人；一宮市）などとなっています。

また、当地区は、尾張大國霊神社、津島神社などの神社・仏閣、尾張津島天王祭、須成祭、国府宮はだか祭などの行祭事など、歴史や伝統のある多くの観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2014年）

＜施設等区分\*別利用者数の割合＞



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源（利用者数上位10位）＞

順位	観光資源名	市町村	利用者数（人）
1	国営木曾三川公園138タワーパーク	一宮市	1,932,176
2	真清田神社	一宮市	1,190,380
3	一宮七夕まつり	一宮市	1,105,000
4	尾張大國霊神社(国府宮)	稲沢市	1,078,400
5	津島神社	津島市	923,280
6	祖父江善光寺東海別院	稲沢市	386,894
7	エコハウス138	一宮市	320,110
8	尾張津島藤まつり	津島市	251,000
9	尾張温泉東海センター	蟹江町	247,117
10	尾張津島天王祭	津島市	240,000

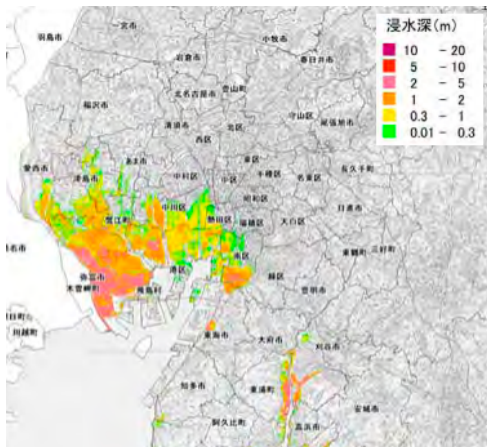
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2014年）

## 8 防災

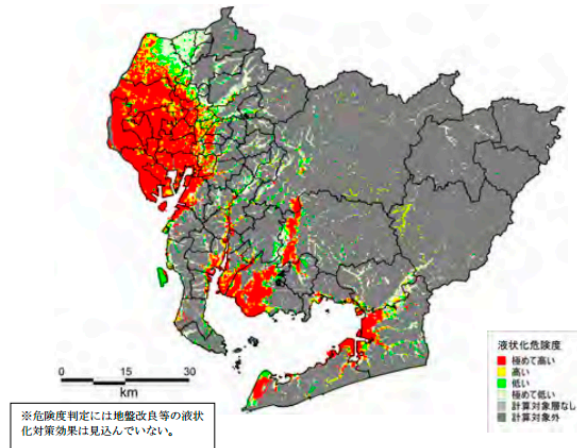
尾張中西部・海部地区は、地区西部を中心に日本最大のゼロメートル地帯となっており、本県が行った南海トラフ地震の被害想定として、ゼロメートル地帯では、強い揺れや液状化による堤防等の被災を考慮すると、広い範囲が浸水するおそれがあることが指摘されており、浸水面積（浸水深1cm以上）は、弥富市（3,597ha）、愛西市（1,387ha）、飛島村（1,200ha）などで大きくなっています。

### ■浸水想定域（浸水深1cm以上） （「過去地震最大モデル」による想定）

愛知県西部



### ■液状化危険度分布 （「過去地震最大モデル」による想定）



液状化危険度分布 「過去地震最大モデル」による想定

市町村	浸水面積（浸水深1cm以上）	浸水面積／行政面積
津島市	662ha	26.4%
愛西市	1,387ha	20.8%
弥富市	3,597ha	73.4%
蟹江町	487ha	43.9%
飛島村	1,200ha	53.5%

※「過去地震最大モデル」：過去に発生したことが明らかで規模の大きい宝永地震、安政東海地震、安政南海地震、昭和東南海地震、昭和南海地震の5地震を重ね合わせたモデル

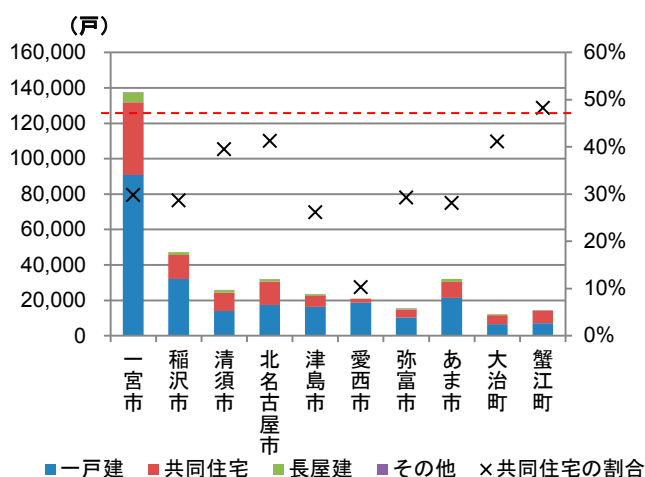
出典：愛知県防災会議地震部会「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」（2014年5月）  
なお、「浸水想定域／行政面積」は、上記被害予測結果及び愛知県「土地に関する統計年報」（2014年）から愛知県政策企画局作成

## 9 住宅

尾張中西部・海部地区の2013年の住宅総数を市町村別（人口15,000人未満の町村を除く※）に見ると、一宮市が137,500戸で最も多く、次いで稲沢市が47,170戸、あま市が31,990戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、蟹江町（48.2%）で県平均（46.3%）を上回っています。

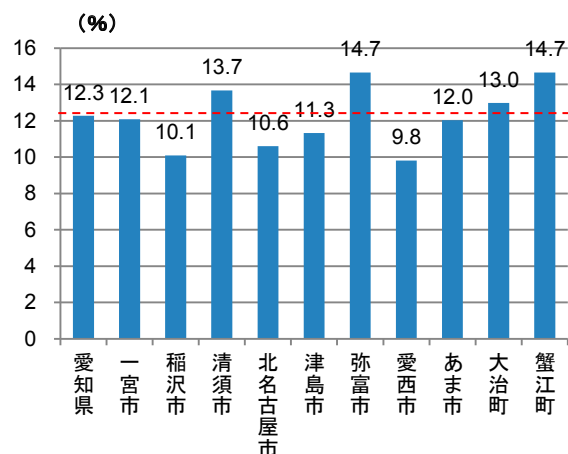
空き家率を見ると、弥富市（14.7%）、蟹江町（14.7%）、清須市（13.7%）などで県平均（12.3%）を上回っています。

■住宅総数（2013年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（46.3%）

■空き家率（2013年）



※赤線は空き家率の県平均（12.3%）

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）

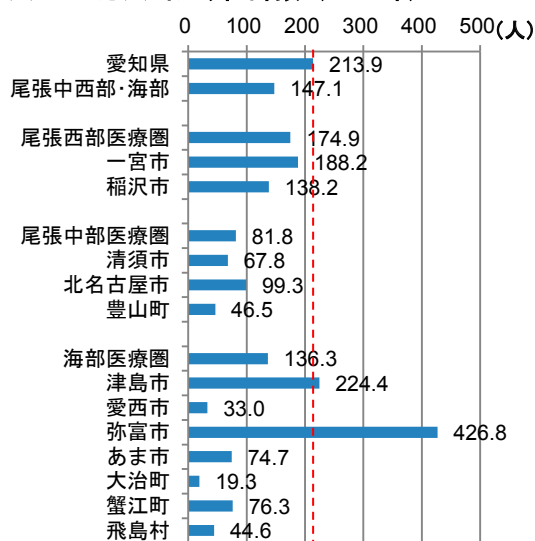
※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

10 医療・福祉

尾張中西部・海部地区の2014年の人口10万人当たりの医師数は147.1人であり、県平均（213.9人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、尾張西部医療圏174.9人、尾張中部医療圏81.8人、海部医療圏136.3人であり、尾張中部医療圏では県平均の1/2以下となっています。市町村別に見ると、弥富市（426.8人）で多くなっています。

また、本県が2015年に実施した調査によると、医師不足による診療制限をしている病院の割合は28.6%となっています。二次医療圏別に見ると尾張西部医療圏は42.1%、尾張中部医療圏は0.0%、海部医療圏は18.2%となっており、尾張西部医療圏は県平均（22.4%）を大きく上回っています。2007年の状況と比較すると、海部、尾張中部医療圏は横ばいとなっており、尾張西部医療圏は12.1ポイント上昇しています。

■人口10万人当たり医師数（2014年）



※赤線は県平均（213.9人/10万人）

■医師不足を原因とした診療制限を行っている県内病院の割合

	2007年6月末			2015年6月末		
	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合
愛知県	338	62	18.3%	322	72	22.4%
尾張中西部・海部	36	8	22.2%	35	10	28.6%
尾張西部医療圏	20	6	30.0%	19	8	42.1%
尾張中部医療圏	5	0	0.0%	5	0	0.0%
海部医療圏	11	2	18.2%	11	2	18.2%

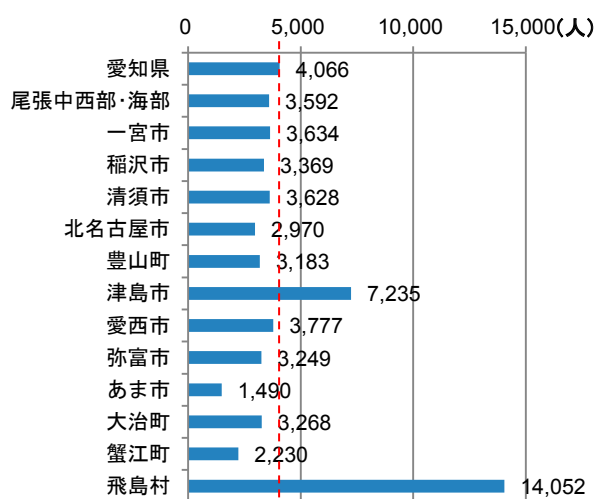
出典：愛知県「県内病院における医師不足の影響に関する調査結果」

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

高齢者向け施設について、2014年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は3,592人と、県平均（4,066人）を下回っています。市町村別に見ると、飛島村、津島市が県平均を大きく上回る一方、あま市、蟹江町では大きく下回っています。

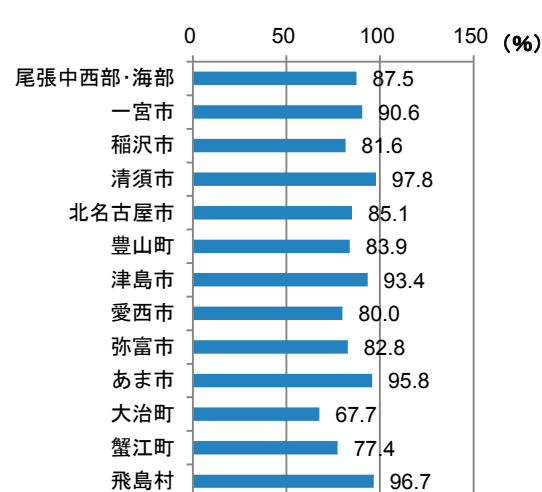
また、2014年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は87.5%であり、地区内に充足率が100%を上回る市町村はありません。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2014年）



※赤線は県平均（4,066人/10万人）

■保育所充足率（2014年）



出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」（2014年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

## 【尾張中西部・海部地区における県の主な取組】

当地区は、名古屋空港周辺や臨海部における工業集積に加え、県内有数の農業地帯を形成しているとともに、歴史や伝統文化を有しており、県としては航空宇宙産業などの次世代産業や地場産業の振興、農林水産業の振興のほか、地域の魅力の創造・発信に取り組んでいます。

一方、当地区は日本最大のゼロメートル地帯を抱えており、南海トラフ地震に備えた津波対策や治水対策に取り組んでいます。

### （次世代産業の育成・地場産業の振興）

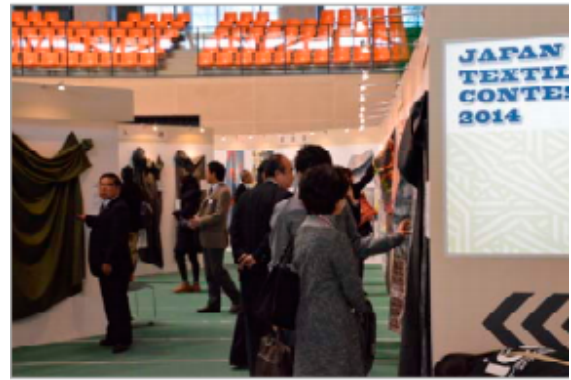
航空宇宙産業については、県営名古屋空港周辺に、航空機産業に関わる研究開発・生産機能の集積が進んでいる中で、「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の中核事業として、県が確保した県営名古屋空港の隣接地へMR Jの量産工場を誘致したほか、同空港において、MR Jの生産整備に必要となる駐機場等の施設整備を推進しています。また、特区の支援措置の活用とともに、特区における規制の特例措置や各種法令に基づく条例により、津島市、稲沢市、弥富市、あま市、豊山町、飛島村において、工場立地に係る

緑地規制の緩和措置を図るなどの取組が行われており、更なる企業集積や航空機生産機能の拡大・強化に取り組んでいます。

また、地場産業である繊維産業の活性化に向けて、「ジャパン・テキスタイル・コンテスト」等への出展支援による情報発信や販路開拓の支援を行っているほか、あいち産業科学技術総合センター（尾張繊維技術センター）における新技術・新製品の開発支援や、ブランド化など知的財産の戦略的な活用を促進しています。



県営名古屋空港隣接地における航空宇宙産業クラスター拠点用地で生産予定のMRJ



ジャパン・テキスタイル・コンテスト

### （農水産業の振興）

西部地域を中心に稲作のほか、レンコン、トマトなどの野菜の栽培も盛んに行われているなかで、新技術の導入や農地集積などを通じた生産性の向上を図るとともに、国営総合農地防災事業新濃尾地区や国営施設機能保全事業尾張西部地区などの基盤整備を進めています。

また、地域団体商標に登録されている「祖父江ぎんなん」や全国2位の生産量を誇る弥富のきんぎょをはじめ、特産品のブランド化を進めるとともに、6次産業化や農商工連携の取組を支援し、付加価値の向上を図っています。



祖父江ぎんなん



きんぎょの養殖

### （地域の魅力の創造・発信）

尾張津島天王祭、はだか祭といった伝統文化、七宝焼などの伝統的工芸品、木曾三川に面した水郷地帯であることなど、地域資源を生かした観光振興を図っています。

また、県営名古屋空港に、「航空機産業の情報発信」、「航空機産業をベースとした産業観

光の強化」、「次代の航空機産業を担う人材育成の推進」をコンセプトとして、航空機をテーマとした見学者の受入拠点施設となる「あいち航空ミュージアム（仮称）」を、2017年秋頃を目安に整備していくこととしています。

更に、2014年には、「木曾三川ウルトラマラソン」を新規に立ち上げたほか、東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡である朝日遺跡の出土品を展示する清洲貝殻山貝塚資料館の整備・拡充に向けた検討を進めています。



尾張津島天王祭 宵祭



朝日遺跡出土品  
（左：円窓付土器／右：朝日銅鐸）

### （津波・治水対策の強化）

ゼロメートル地帯の洪水時等の水防活動及び復旧活動を行う拠点として2014年12月には日光川河川防災ステーションを整備したほか、老朽化・耐震・治水の対策のため日光川水閘門の改築を進めています。また、各地区において堤防や排水機場、排水路等の整備、総合的な排水対策など、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策を進めるとともに、河川・海岸施設の耐震化等を推進しています。

更に、救出救助活動に必要な広域的な防災活動拠点を整備するための取組を進めており、2016年度には、木曾三川下流域の拠点（旧愛知県老人休養ホーム永和荘跡地）の整備計画を策定するとともに、その他の整備候補地の選定を進めていきます。



日光川河川防災ステーション



日光川水閘門の改築（2015年8月撮影）

**（重症心身障害児者施設、特別支援学校の整備）**

民間による重症心身障害児者施設の整備を後押しするため、県では、2014年度に30億円の「障害者福祉施設減税基金」を創設しており、その基金を活用し、一宮市において県内で初めてとなる民間法人による施設が2016年1月に開所しました。また、2014年4月には、平和高校跡地において、いなざわ特別支援学校を開校しました。



一宮医療療育センター（(社福) 杏嶺会）



いなざわ特別支援学校

**（産業や暮らしを支える基盤整備）**

中部国際空港や名古屋港へのアクセス道路として重要な役割を果たす名古屋環状2号線については、未整備区間であった西南部・南部区間（名古屋西JCT～飛島JCT（仮称））が、2012年度から工事に着手されており、早期全線開通をめざした取組を進めています。

また、地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋津島線や名古屋第3環状線、伏見町線などの整備を進めるとともに、地域の主要渋滞箇所の緩和・解消を図るため、主要地方道岐阜稲沢線西尾張IC（仮称）及び刈安賀1号踏切除却などの整備を進めています。

我が国屈指の国際貿易港である名古屋港については、2015年12月に改訂した新たな港湾計画に基づき、「国際産業戦略港湾」としての機能強化を図っています。

更に、都市機能の充実に向けて、新清洲駅北土地区画整理事業等の土地区画整理事業などを進めています。



名古屋環状2号線  
名古屋西JCT～飛島JCT（仮称）  
西南部・南部区間：飛島村（日光川付近）



名古屋港 飛島ふ頭 コンテナターミナル